



発行責任者 亀岡市立病院広報委員会

〒621-8585

京都府亀岡市篠町篠野田 1-1

TEL 0771-25-7313

FAX 0771-25-7312

<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/>

病院理念

- 急性期医療を中心とした適切かつ良質な医療を提供します。
- 患者さまの権利を尊重し、理解と納得に基づいた患者さま中心の医療を行います。
- 地域医療機関と連携し、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み地域医療の向上に貢献します。
- 公共性と経済性を考慮し、市民の理解と信頼を得られる透明性のある病院運営を行います。

CONTENTS

新年のごあいさつ	1
消化器科診療内容の紹介	2・3
無料肝炎ウイルス検査のご案内	4
第一病棟の紹介	5
市立病院に質問 便秘について	5
トピックス クリスマス会開催 他	6
病院職員紹介	6
地域連携医のご紹介	
加藤医院・平岡医院	7
編集後記	8
アクセスマップ	8



新年のごあいさつ

あけましておめでとうございます。

今年一年の市民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

お蔭様で今年の6月から、亀岡市立病院は開院7年目の診療を行っていくこととなります。これも市民の皆さまの日頃からの病院に対するご理解とご協力の賜物と深く感謝をいたします。

ご承知のとおり、市立病院は病床数100と比較的小規模の病院で、昨今の厳しい医療情勢から、特に医師の確保が必ずしも十分とは言えず、市民の皆さまのご期待のすべてにはお応えできていない部分もあるものと認識をしております。現在、常勤として内科、消化器科、循環器科、外科、整形外科、小児科、麻酔科の医師が勤務しております。市立病院としての歴史は6年足らずではありますが、勤務する医師はすでに医師としての修練を十分に積んできており、それぞれの科の一般的な診療に加えて、各々が得意とする分野をもっております。この広報誌「桔梗」などを通じて、市立病院の診療内容を広く市民の皆さまに知っていただき、その結果として市立病院の医師の能力を十分に発揮することができれば、きっと納得していただける医療を提供できるものと考えております。そして医師に限らず、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、栄養士、事務職員、病院で働くすべての職員一人一人が、市民のための市立病院であることを強く意識して診療を行っていきたいと考えております。そうして、市民の皆さまからは“私たちのまちの、私たちの市立病院”と思っていただけることを目標としてまいりたいと存じます。今後ともご理解とご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



亀岡市立病院 病院長 上田和茂

消化器科診療内容の紹介

消化器科は、上田病院長を含め4名の常勤医師が担当しております。消化管内視鏡や放射線、超音波などの各種検査を活用し、消化器疾患（食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓）の診断、内科的治療を行っております。外科的手術が必要となる患者様につきましては、外科と密接に連携し、診断・治療にあたります。当科で行っているおもな検査・治療を紹介いたします。

経鼻内視鏡

胃癌や食道癌を早期発見するためには、症状のないうちに上部消化管内視鏡検査を受けていただくことが必要です。当院では、従来の口から挿入する内視鏡に比べて苦痛の少ない経鼻内視鏡（鼻から挿入する胃カメラ）を導入しております。検査は原則予約制なのですが、2009年2月より経鼻内視鏡を2本に増備し、以前に比べて予約が入りやすくなっておりますので、ぜひご利用ください。ただし、肝硬変などで出血傾向のある患者様や、血液をサラサラにする薬を飲まれていて事前に中止できない患者様は、鼻血が止まりにくくなる恐れがありますので、従来の口からの内視鏡とさせていただきます。ご了承ください。



経鼻内視鏡

下部消化管内視鏡／ 内視鏡的粘膜切除術(EMR)

大腸がん検診で精密検査を指示された方には、下部消化管内視鏡検査が必要となりますが、外来を受診していただくか、もしくはお近くのかかりつけ医を通じて予約が可能です。検査中にポリープなどの病変を認めた場合に組織生検を行うこと

がありますが、抗凝固剤を内服中の方は出血のリスクが高いため生検ができませんのでご承知おきください。早期大腸癌や大腸ポリープに対しては、原則として2泊3日の入院でEMRを行っております。

超音波内視鏡(EUS)

上部消化管、下部消化管、胆膵疾患の診断に幅広く有用な検査です。食道癌、胃癌、大腸癌の深達度診断や粘膜下腫瘍(SMT)の質的診断に有用であり、膵腫瘍、特に膵嚢胞性疾患(IPMNなど)の診断のためにも積極的に行っております。

緊急内視鏡

当院は内科常勤医師が少なく、夜間や休日の当直医師が内科医師でない場合がございます。しかし、24時間365日オンコール体制をとっておりますので、上部消化管出血や消化管異物を中心に、必要な症例には緊急内視鏡検査／治療はいつでも施行可能となっております。

食道・胃静脈瘤に対する治療

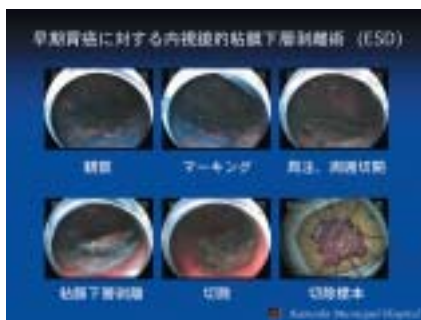
肝硬変などの門脈圧亢進症に伴って生じる食道・胃静脈瘤につきましては、出血時の緊急止血はもちろんのこと、予防的治療にも積極的に取り組んでおります。内視鏡的治療には、おもに内視鏡的硬化療法(EIS)と内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)がありますが、腹部造影CTや超音波内視鏡で門脈血行動態を把握し、肝障害の程度や肝癌の有無を考慮して、EISもしくはEVLを選択し、あるいは両者を併用して治療を行います。穹窿部胃静脈瘤については、EISだけでなく、バルーン下逆行性経静脈的塞栓術(B-RTO)も選択肢に加えて治療にあたります。

経皮内視鏡的胃瘻造設術(PEG)

意識障害や嚥下障害などが原因で経口摂取が十分できない患者様への栄養投与方法として、最近では胃瘻が一般的になってきております。当院では経鼻内視鏡を用いてPEGを施行しており、苦痛が少なく、開口障害のある方でも問題なく造設可能です。また、従来のpull法に代わってセルジンガー法を採用し、瘻孔感染の危険性を大きく低減させました。

内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)

早期胃癌や食道癌に対する内視鏡的治療としては、従来は内視鏡的粘膜切除術(EMR)が一般的でしたが、遺残なく一括切除



ESD

できる方法としてESDが最近急速に普及してきております。切除に時間がかかることや、出血や穿孔など偶発症の頻度が高いといった欠点がありますが、技術の向上や新しい処置具の開発などにより、これらも解消されつつあります。

内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)

胆膵疾患に対する内視鏡的診断・治療に有用な検査で、当院では原則として入院の上で行います。癌を疑う症例では、造影に引き続いて胆管や膵管の細胞診を行います。総胆管結石症に対しては、内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST)を行い、バスケットカテーテルなどを使用し結石を除去することができます。また、悪性腫瘍による閉塞性黄疸に対しては、内視鏡的胆管ステント留置術を行います。

ウイルス性肝炎に対する診断・治療

現在、肝炎は我が国最大の感染症と考えられており、平成20年度からB型およびC型肝炎のインターフェロン治療に対する医療費助成が行われています。肝炎に対する患者様の関心が高まる中、医療機関には専門的かつ個々の患者様に応じた適

切な対応が求められています。当院では、各種血液検査や超音波検査などの画像検査に加え、短期間の入院で肝組織検査を積極的に行うことで、より詳細な病状の把握に努めています。その結果をもとにB型慢性肝炎にはエンテカビルなどの抗ウイルス療法やインターフェロン療法を、C型慢性肝炎にはペグインターフェロン、リバビリン併用療法を中心とした抗ウイルス療法を行っております。

肝癌に対する診断・治療

慢性肝炎、肝硬変を背景に起こる肝細胞癌は、癌による死亡の原因として依然、大きな割合を占めています。肝細胞癌の発見に不可欠な画像診断は近年、めざましい進歩が見られ、これまで診断の中心であったダイナミックCTに加え、肝細胞の機能や生物学的特徴を利用した特殊な造影剤を用いてEOB-MRIや造影エコーが行われるようになりました。当院ではいち早くこれらの検査を導入することで癌の早期発見に努めています。

肝細胞癌の治療としては肝動脈塞栓術、CTや造影エコーを駆使した、エタノール注入療法(PEIT)、ラジオ波焼灼療法(RFA)、動注化学療法などを行っています。これらの内科治療に加え、外科切除という選択肢があり、当院では定期的に内科・外科合同ミーティングを行い、個々の患者様に最適



肝癌治療

な治療を選択、または組み合わせることにより治療効果を上げています。

経皮的ドレナージ

急性胆嚢炎に対する経皮経肝的胆嚢ドレナージ(PTGBD)、胆管癌や膵癌などによる閉塞性黄疸に対する経皮経肝的胆道ドレナージ(PTCD)やそれに引き続いたステント留置、肝膿瘍に対する穿刺ドレナージや肝嚢胞に対するアブレーションなどを行っています。

(消化器科 医長 豊田和之)

無料肝炎ウイルス検査のご案内

— 正しく理解し、検査を受けましょう —

～ウイルス性肝炎とは～

肝炎ウイルスにはA、B、C、D、E型などがあり、A型およびE型は主に食物を介して感染し、急性肝炎（発熱、全身倦怠感、黄疸などの症状）を引き起こす場合があります。また、B型、C型肝炎ウイルスは主に血液を介して感染し、急性肝炎だけでなく慢性肝炎を起こす場合があります。長期間にわたる軽度の肝障害、徐々に肝臓が繊維化し肝硬変や肝臓になる可能性があります。肝臓は「沈黙の臓器」と言われるように、慢性肝炎になってもなかなか症状が出ない場合がありますので、今までにB型、C型肝炎ウイルス検査を受けたことのない方は、一度は検査を受けるようにしましょう。

～肝炎ウイルス検査について～

当院では、京都府より委託を受け、下記のとおり「B・C型肝炎ウイルス検査」を無料で実施しています。

■対象者

亀岡市、南丹市、京丹波町在住の方で、これまでに肝炎ウイルス検査を受けたことのない方。過去にC型肝炎ウイルス検査を受けた方は、再度検査を受ける必要はありませんが、新たに以下の事由に該当される方は検査を受けて頂くことをお勧めします。

- 1992（平成4）年以前に輸血を受けた方
- 大きな手術を受けた方
- 血液凝固因子製剤を投与された方
- 長期に血液透析を受けている方
- 臓器移植を受けた方
- 薬物濫用者、入れ墨をしている方
- ボデイピアスを施している方
- その他、過去に健康診断などで肝機能検査の異常を指摘されているにもかかわらず、その後肝炎の検査を実施していない方など

■実施期間 平成20年2月25日～平成22年3月31日（予約制）
毎週水曜日午後（祝日を除く）

■予約受付 亀岡市立病院 医事課 『緊急肝炎ウイルス検査受付』まで
電話 0771-25-7313（病院代表）
予約受付時間 8：45～17：00（土日祝日を除く）

■検査項目 B型肝炎ウイルス検査およびC型肝炎ウイルス検査
検査内容は血液検査となっており、採血をさせていただきます。

■検査料金 自己負担なし（無料）

～もしも、肝炎ウイルスに感染していることが分かったら～

日本肝臓学会認定専門医が外来を行っている医療機関を受診して頂くことをお勧めいたします。当院でも専門医による外来を行っており、肝炎治療に対する医療費助成も受けられる場合もありますので、お気軽にご相談ください。

第1病棟の紹介

第1病棟は、東西に伸びる建物の3階にあります。大きな窓の外は遮るものがなく、亀岡の山々が四方に見渡せ、四季の変化を存分に感じられる病棟です。

消化器疾患を中心とする内科・外科・眼科の混合病棟で、急性期の患者様が多数入院されています。そのため、日々入退院をされる患者様が多く、医師や看護師は検査・処置・治療・手術等で毎日忙しいですが、患者様の前向きな姿や元気になって退院されていく姿に励まされています。

また、急性期だけでなく、癌の患者様の中には、終末期の方もおられます。栄養サポートチームによる栄養改善はもちろんのこと、癌による痛みには、主治医をはじめ、麻酔科医のアドバイスも受け、苦

痛の無いようコントロールを行っています。そして、残された人生をその人らしく過ごしていただくため、医師をはじめ、看護師、MSW（メディカル・ソーシャルワーカー）、地域の訪問看護師、ケアマネジャー、その他多くのスタッフがチームを組み、一丸となって患者様やご家族をサポートしています。



今後とも、患者様の笑顔や満足とご家族の安心を目指し、充実した医療、看護が提供できるよう努力していきたいと思っています。

(第1病棟看護師長 河原照子)

便秘

Q&A

「うちにいる3歳・男の子について質問です。

離乳食を本格的に始めた頃から便秘が続いており、良い時で3~4日に1度、ひどければ1週間以上便がでないことが頻繁にあります。普段の食事では、出来るだけ消化の良いものを食べさせるようにしているつもりですし、野菜ジュースやバナナ、ヨーグルトなど便秘に効きそうな物も毎日摂らせるようにしているのですが、なかなか改善しません。便秘が続くと食欲も少しずつなくなり心配です。子どもの便秘を治すために、普段の生活で何に気をつければ良いのでしょうか？また、どのタイミングで病院に連れて行って相談するのが良いのでしょうか？」

(亀岡市内在住・Oさん)



市立病院に質問

家庭でできる便秘対策としては、十分な水分を飲む、繊維質の食事を食べる、おなかのバランスを整えるもの（ヨーグルトなど）を食べる、そしてしっかりと運動をする（腹筋を使うことでおなかのマッサージ効果があり、腸を外から動かすことが期待できます。）などがよく知られています。Oさんのおうちでは、食べものや飲み物での対策は考えておられるようです。そして、3歳の子どもの場合、運動不足というのはほとんど考えにくいので、無理に動かすことを考える必要はないでしょう。

では、あとは何ができるのでしょうか。人間の生活にはいろいろなリズムがあります。排便もその生活リズムの中に入るようにすると改善するかもしれません。Oさんのお子さんは離乳食の開始からすでに便秘ぎみであったということなので、もしかしたら、もともと、ちゃんとした定期的に排便をするというリズムができていないのかもしれません。はじめのころに「食べる」「寝る」などは規則正しく繰り返されていたでしょうか？もし、リズムができていないなら、今からでもリズムを作ることで便秘が治せるかもしれません。毎日同じ時間にとりあえずトイレに入っすわって

るというのも良いかもしれません。また、条件反射を利用するなら、トイレに座る前にいつも同じことをする。例えば、朝ごはんを食べて、歯磨きをして、顔を洗ったら必ずトイレに座るということを毎日繰り返すと朝に歯磨きをして顔を洗うと腸の動きが活発になって便がでるようになるかもしれません。リズムをつくるきっかけに浣腸を使うのもいいと思います。毎日という訳にはいきませんが、3日に一回ぐらい、朝の歯磨きあとに浣腸（市販のイチジク浣腸なら使い易いでしょう）をして、トイレに座るという形でリズムをつくることもできます。

それ以外では、普通に薬局で手に入るマルツエキスというのがあります。主成分は麦芽糖ですが、腸の運動を活発にする作用があり、他の下剤のように栄養吸収を邪魔することなく便秘を改善させることができます。麦芽糖ですから、むしろ栄養にもなります。

このように便秘対策はいろいろありますが、効果には個人差があり、小さな子で度々、3日以上便秘になるようであれば小児科へ受診してアドバイスをうけるのがいいと思います。

(回答者 小児科部長 寺町紳二)

“整形外科診療体制の充実を図りました”

本年1月1日より、従来からの整形外科常勤医師2名に加え、京都府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院副院長で、京都府立医科大学大学院医学研究科運動器機能再生外科学併任准教授でありました辻吉郎医師を運動器疾患センター長として

迎えました。今回の採用により、常勤医師が増員となり、外来診療はもちろんのこと、入院患者様や救急患者様の受け入れ体制が更に充実いたします。今後も一丸となって市民の皆さまのために診療に取り組んで参りますので、よろしくお願い致します。

第6回クリスマス会を開催しました

昨年の12月18日（金）に当院外来フロアにて毎年恒例の第6回クリスマス会を開催しました。当院のクリスマス会は、普段お越しいただいている患者様と、診療の時にはできないような交流を行い、信頼関係を深めたい



との思いから、平成16年の開院以来、毎年開催させて頂いております。今年も、病院スタッフ全員の協力で、手作りのクリスマス会をとすることで、看護師とクラークによるハンドベルの演奏・人形紙芝居・ダンスをはじめ、コメディカルによるリコーダー演奏&バルーンアート作成・ホルン演奏、院内各科の医師によって結成された“ドクターズ”によるコーラスなど、患者様と楽しいひと時を過ごしました。今年の開催時も、ぜひ、皆さまのご参加をお待ちしております。

病院職員紹介



医事課 医事係
上久保 美里

昨年4月に入職して、はや9カ月がたちました。診察、検査、お薬など病院での診療行為を点数化してお会計を請求するのが医事課の毎日の主な仕事です。まだまだ慣れないことも多いのですが、先生や先輩方の温かい指導のもとで日々頑張っています。

初めて市立病院に来てまず思ったのは病院建物のデザインの素晴らしさです。中庭を中心に各外来が配置され、待合にも自然光が入り病院全体がとても明るく暖かい印象を受けました。病棟の大部屋も、各ベッドに窓があり、光が入る配置になっていて、入院される患者さんにとっては嬉しいことだなあと感じました。

私は、沖縄が大好きで、時々旅行に行きます。

沖縄は気候が暖かいだけでなく、沖縄特有の文化や食べ物、豊かな自然、人の温かみがあり、時間がとてもゆっくり流れているように感じます。『いちやりばちよーでー』という沖縄の言葉があります。「一度逢ったら皆兄弟」という意味です。沖縄の人は、はじめて逢ったばかりなのに、晩御飯をご馳走してくれたり、「泊まっていったらいいさあ。」と声をかけてくれたり、驚くほど親切です。私も何回か旅するうちに、何人も沖縄に友人ができ、今では宿いらずになったほどです。病院という医療現場ではなかなかゆったり過ごすという事はできませんが、常に心に余裕をもって、このような暖かい気持ちで患者さんと接する事ができればと、真心のコミュニケーションを心掛けておりますので、お気軽に声を掛けてください。

新型インフルエンザの猛威はあいかわらずおさまりません。皆さん、手洗い、うがい、マスクなどでしっかり自己防衛をし、この冬を元気でのりきってください。

(イラスト 第1病棟看護師 武田 綾子)

当院では、地域の医療機関と連携して、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み、地域医療の向上に貢献することを病院の基本理念として、患者さま中心の医療を展開しています。そこで、本誌において、地域の連携医療機関を順次紹介させていただきます。

加藤 医院

院 長：加藤 啓一郎

住 所：亀岡市篠町見晴6丁目14-6
Tel：24-5903
標榜科目：内科、消化器科
診療時間：午前9:00～12:00、午後6:00～8:00
火・木・土の午後および日祝日休診

院長より一言

内科・消化器科として平成3年5月に開業し、18年目になります。

最近では、健診や指導などの予防にも力を入れており、内科全般を診ることが多く、消化器や循環器の精密検査で亀岡市立病院にお世話になることが増えてきました。以前は、検査や入院紹介などで病院受診を勧めても遠方のことが多く大変でしたが、平成16年に亀岡市立病院が開院されてからは、最近の後方支援病院として多くの患者さんを紹介させていただいています。

市立病院開院当初は、まだ紹介先として少し不安がありましたが、上田院長の下ここ数年の診療内容の充実ぶりはめざましく、対応も迅速・丁寧にさせていただけるので、安心して紹介できる病院としてしっかり位置づけるようになりました。

これからも一層、病診連携を密にして患者さんの期待に応えられるよう、努力していきたいと考えています。



平岡 医院

院 長：平岡 聡

住 所：亀岡市本町19
Tel：22-0260
標榜科目：外科、内科
診療時間：午前9:00～12:00、午後5:30～7:00
火・土の午後および日祝日休診

院長より一言

明治19年に私の曾祖父が南丹市八木町で診療所を開設したのが平岡医院の始まりです。昭和3年に祖父が亀岡市本町に移って開業。平成19年4月から私が父のあとを引き継いで管理者として診療しています。当時から近医の平田クリニックに誘っていただいて、在宅医療に力を入れています。現在、通院困難ながら住み慣れたご自宅で闘病されている30人余りの患者さんのベッドサイドに赴き、訪問看護の看護師の方々、後方で支えていただいている亀岡市立病院などのご協力を得ながら診療を行っています。

平成20年には世界で最も省エネの進んでいるスウェーデン規格の建物に建て替え、患者さんがいつ来院されても暑さ、寒さを感じないような環境のクリニックでお迎えしています。他にも、感染予防の目的を兼ねてお一人ずつ快適に待っていただけるよう、待合室の椅子を一人掛けとしたり、お身体の不自由な人も出入りしやすいよう土足にしたり、トイレのスペースを広く取っていたりアメニティーに配慮しております。

また、内外装に木材をふんだんに取り入れていますので、癒しの空間を味わっていただけるかと思えます。

亀岡市立病院には、急に困ったときに何度も助けていただき有難うございます。今後も、困ったときに第一に相談させていただきたいと思っています。



編 集 後 記

あけましておめでとうございます。

昨年は、病院が開設して6年目を迎え広報誌「桔梗」を発行することができました。創刊号では、各診療科紹介を掲載しましたが、今号からは、季節に応じた病気のお話や職員紹介など、皆さまの期待に応えられる様、豊富な内容でお伝えしていきたいと思ひます。

また、病気や病院の「こんな事が知りたい！」と言った疑問点などがございましたら、病院に設置してあります投書箱を通じましてご質問いただければ、広報委員会で検討の上、可能な限りお応えしていきたいと思ひています。

なお今回誌面の都合上掲載出来ませんでした。が、昨年の秋に実施いたしました、患者様アンケートの集計結果を、市立病院のホームページに3月頃掲載を予定しております。ご協力いただきました患者様には、誌面を借りましてお礼申し上げます。最後になりましたが、今年も皆様にとって、幸せな一年となりますよう祈念いたします。

広報委員会副委員長 八木教之（放射線技術科長）

病院敷地内全面禁煙



亀岡市立病院は、平成21年12月1日から受動喫煙を防止するため、病院敷地内の全ての場所を禁煙としています。皆さまのご理解とご協力をお願いします。



JR馬堀駅から徒歩約5分／京都縦貫道篠インターから車で約5分／駐車(輪)場有

亀岡市立病院

〒621-8585 京都府亀岡市篠町篠野田1-1
TEL 0771-25-7313 FAX 0771-25-7312
<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/access/index.html>